

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271200228		
法人名	医療法人 青虎会		
事業所名	グループホームふれんど		
所在地	静岡県御殿場市川島田1084-1		
自己評価作成日	平成27年12月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvCd=2271200228-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成28年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎月季節に合わせた行事を企画し、外出も行なっている。 ・週3回、音楽療法士による音楽療法を実施し「うたの力」を実感している。 ・実習生やボランティアを多く受け入れ、外部の方々との交流を楽しんでいる。 ・併設の事業所(老健・ショートステイ)の行事企画に参加し、他の利用者様と交流が図れるよう支援している。 ・運営推進会議を通じ、地域に出向く機会も増えた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>御殿場市246号線沿いに所在する医療法人社団 青虎会の敷地は、地域に密着した総合医療を理念に内科、消化器科、脳神経外科他の診療科目をも持つ「フジ虎の門整形外科病院」をメインに医療福祉エリアとなって居ます。老健「あすなろ」等各種介護施設も所在し、グループホーム「ふれんど」も当該敷地内です。同市内にはグループの別法人、社会福祉法人「介護老人ホーム 白雪」等も存在します。法人エリア内の医療介護の環境にも恵まれ職員には研修機会も多く全員が共通の念を持ってご利用者の介護、支援を行っています。施設は平成17年(2005年)3月設立され11年が経過しました。ご利用者を尊び一人ひとりに寄り添い介護支援が行われ開設以来のご利用者も何名か居られ、最近では週3回続けられている音楽療法の効果も浸透してご利用者の笑顔も増えて参りました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設以来、「その人らしく生きられる、そして、すべての人に支えられる生活空間」なる理念をかかげている。理念にもとづいた年度目標もたて、実践に活かしている。	開設以来の理念を遂行出来るよう、毎年、行動目標を設定、年度末にはその振り返りを行い新年度の目標を掲げ実践しています。本年は「笑顔で向き合おう、相手に寄り添い耳を傾けよう」の目標と「まずは、しっかりと相手の姿と声に注目しよう」と副題を設定し、常に利用者により添う姿勢で実践	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の地道な開催もあり、地域行事への参加も少しずつ増え、地域から視線も感じている。家族、知人、近所の方も行き来し、風通しの良さは感じる。	地域との関わりが強い土地柄でもあり、また民生委員の口添えなどもあり外部行事へも出向く機会が多くなって来て居ます。どんど焼き、こども相撲大会、秋の神社の祭り等々。利用者各位の身体状況に応じての個別支援も含み惜しむことなく参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族連絡会で認知症をテーマにとりあげ、家族や地域の方々に向けて理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、今ある問題点を紹介し、アドバイスを頂いている。地域の様子も教えてもらい、行事への参加、住民とのかかわりも少しずつ増えている。	運営推進会議は隔月定期的で開催され、地域包括、民生委員、近隣に住む地元の有志、自治会代表等地域を代表する方々の出席で、報告や審議する内容もキメ細かく行き届き施設運営上の成果が期待されます。今後は、ご家族有志の出席や多くの意見が待たれるところです。	ご家族の出席は、それなりの事情や、地域柄、施設にお任せのお気持ちも理解できますので、会議開催結果をお家族へフィードバックする適切な方策など検討いただき、内容の共有を図っていただければと期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス連絡協議会が発足された。今後、横のつながりをどういう風につくっていくかについて模索し始めた。	市の提案もあり規模多機能型施設を含む地域密着型サービス連絡協議会が発足され活動内容も事業者間や市側との協議で進んでいます。しかし、現在でも地域包括及び市側諸部門との連携はネックになる事項なく順調に推移しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をかかげている。例外はあるが、委員会への参加も含め、拘束しないケアを浸透させている。	同じ法人傘下の老健が主導する本件に関するテーマの委員会や研修には当該施設からも出席、県主催の研修にも参加する等で、その成果を職員が共有するよう努めています。拘束の事例はないものの、現在ではスピーチロックをテーマに職員同士が共通の認識で支援できるよう取り組んで	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待」そのものに関して学ぶ機会はないが勉強会などでの寄り添いの大切さを学ぶ中で意識を共有し、虐待へ発展しないよう気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際制度を利用している利用者はいるが、それを理解している職員は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には、契約書及び重要事項説明書を、改定時には、重要事項説明を提示し、同意を得ている。解約時には、十分な説明を行ない、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、こちらから積極的に声かけを行ない、話しやすい環境に心がけている。要望などは速やかに対応し、サービス改善につなげている。	良く訪問して下さるお家族のご意見や要望は会話の中から汲み取れるので連絡ノートに書き留めたりし、その都度、サービス向上や改善に結び付けるようになっています。また、家族会開催時等を利用し多くの方々の意見吸収が出来るよう施設内では話し合われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	報告、連絡、相談はその都度受けている。部署内で解決が困難な場合には、母体である老健で組織されている各種委員会などへ相談し反映させている。	日常的な業務に関する職員意見や提案は、その都度または職員会議で解決される事例が多いようです。例え困難事例がある場合でも、法人組織内老健が主催する各種委員会で取り上げていただけるよう、解決への道が出来ています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己申告書を提出してもらい、それをもとに評価を行ない、ひとりひとりにヒヤリングを行なっている。必要時には随時面接を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	その日の勤務終了時、業務確認のためチェックリストに記録してもらっている。併設(老健)の勉強会へ参加したり、外部研修へも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市にある地域密着型サービス施設の交流会が今年度行なわれたので、今後継続し多方面から活動を通じ親睦が図って行ければと、思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅などへ訪問調査に伺い、アセスメントを行なっている。事前の情報なども素に、気持ちを引き出せるよう声かけに配慮し会話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の想いにも耳を傾け、安心して頂けるような対応にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位(特に不安なところなど)を見極め必要としているものからの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで生活してきた過程を大切に、一緒に掃除をしたり、食事作りに励んだり、買い物に出かけたりと継続できる生活環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力を得ながら、本人が安心して生活できるよう、温かい関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職場が一緒だった方、近所の方々など家族以外の方達も来て下さっている。心地良く過ごして頂けるよう配慮している。希望に添いながら馴染みの美容院へも出かけている。	ご利用者は施設内で、それぞれ良いカタチで生活し、平均年齢も88歳と超高齢化を迎えているので馴染みの方との縁も薄れかけては居るようですが、以前一緒に働かれた職場の方やご近所の方が来て頂けます。職員一同気持ちよくお迎えの言葉掛けや湯茶の接待に気遣っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	両ユニットでレクリレーションを行ったり、日常的にユニットへの行き来もしている。お互い世話をしたり、されたりとする場面も多く見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでの生活が困難となり併設(老健)へ入所されたり、病院へ入院しても会いに伺い、今まで通りの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションから思いを伝えられるよう引き出しながら会話をしている。その思いに対し添えるよう努めている。困難な場合には、本人のこれまでの生活背景に添いながら気持ちに立つよう努めている。	職員一人ひとりがご利用者に寄り添い支援することで小さな呟きからも、ニーズを知る事が出来、すぐその意を組み入れたり、メモに記録しカンファレンスで取り上げ実現に努めるなど職員同士が共有し行動しています。何事も本人本位に考える基本を守っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの中から本人や家族に伺っている。また、前のケアマネを担当していた方からも、これまでの経過等を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を記録する各ユニットノートにより申し送りを行なっている。詳細などはカルテ記録し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとの評価と6ヶ月に見直しを定期的に行っている。日々の生活の中で変化が生じれば、その都度検討し修正している。	基本的には長期計画や短期計画により介護、支援は続けられているものの、超高齢化で日々の変化も日常的になっているようです。介護記録や申し送りノートにより、その都度、検討し、本人のできる事を優先に支援し心安らぐ生活が出来るような支援を行なっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートからそれぞれに情報を共有している。気づきや工夫、改善箇所は即時対応できるよう実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化や気付きは毎日の申し送りノートで把握して。現サービスに促われず、今起きている現状に視点を置き換え柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の情報を運営推進会議で頂き、ひとりひとりの趣味や好みに合わせ楽しんで暮らして行けるよう地域へ出向いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、併設病院以外の主治医でも併設の方が安心とほとんどの方々が変えている。心的や認知的な面で生活に支障をきたした場合、現主治医とも相談しながら専門病院へかかって治療を受けている。	法人エリア内には核となる併設病院が整形外科を中心とした諸診療科目や内科、心療内科等の総合病院としてあり、受診・往診環境に恵まれ、かかりつけ医にもなっています。より専門的な受診が必要とする時には専門医の受診も支援されます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設にある老健師長へ毎朝、入居者の状態を伝えている。その時々で不安や状態の変化、緊急時は師長に看てもらい対応の指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	大体は、併設病院に入院されるので職員はお見舞いへ行っている。本人と話をし元気づけたり、看護師の方々より情報を伺い、現状の状態を把握し退院後も速やかに対応できる様、受け入れ準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設の老健師長も含め、十分な説明と話し合いの場を設け、今後の方針について決定している。家族の意見は大切にしているが、本人が住み慣れたホームでできるだけ長く生活できるよう、ギリギリまで支援はしていきたいと思っている。	重度化や終末期に於ける施設の対応についての説明は入所時に十分な説明が為されますが、その時に至っての説明には併設の老健の看護師長も立ち会いお家族の思いや今後の支援につき、十分な説明と話し合い、確認が行われます。その後、施設で最後まで支援が続けられますが老健での最期を望まれます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを設けている。併設老健の勉強会にも月一回参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設で実施している防災訓練に参加するとともに各部署の中では唯一、利用者をまじえた訓練も実施している。やっているだけでなく、さらに実践に近いきめ細やかな内容にしていかなければいけない。	定期的に実施される施設内の大規模な訓練に参加しています。最近では、火災に関して同一建屋内2階ショート施設との合同訓練も、ご利用者参加のもとに実施しています。マニュアルに沿ったの諸連絡、何処に居る者が何をするかなど何度も確認し合い課題を見つけ解決に努めています。	災害時の備蓄、3日分の準備はされていますが、本件に関し法人グループに委ねている部分が多いようで、詳細の確認や必要とする時の調達手順などを施設自身が課題としていますので、早急に解決すよう期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合わせた親しみを込めたかかわりをしてしているが、もう一度、人格の尊重、プライバシーを損ねない対応について皆で意見交換し共有していきたい。	施設の理念、行動指針に基づきご利用者に常に寄り添い耳を傾ける事こそ人格を尊重しプライバシーを守る行動の一步であると捉え、職員はその心を共有し支援しています。職員会議ではその行動の中からの一場面を捉えプライバシーに関連する事柄を意見し合い、学び共有することもありま	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら意思表示されない方も少なくないので、御本人の嗜好に合わせた声かけをし、自己決定できるきっかけをつくっている。	..	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細やかな日程はなく、ゆったり過ごしている。音楽療法、レクなども強制はしていない。作品作り、散歩、家事など希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方は、基本的に御本人にお任せしている。そうでない方には清潔を心かけた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しに始まり、食材の調理盛り付け、片付け、洗いものなど、その方の自主性にまかせているが、一緒にしている。そんな中で、個々の好みも聞いて献立にも活かしている。	法人の大きなエリア内にある施設ですが食材や献立のすべては施設に委ねられています。ご利用者の超高齢化が進んでいても、多くのご利用者が食事時のご自分の持場を心得ていて手伝われません。賑やかで笑顔が絶えない中での昼食は職員もご利用者の介助を行いながら一緒に食します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週間献立をつくる中で、程よい栄養バランスを考えている。食事・おやつ時の水分補給、入浴時、夜間の水分補給など、その方に合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助必要な方には、うがい・歯磨き支援をしている。毎日の入れ歯洗浄も行なっている。又、年1度併設病院の歯科定期検診があったり、必要時は受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に全員トイレに行かれる。トイレの場所がわからなくなる方も意志はしめされるので、速やかに誘導している。訴えがない方には排泄パターンに添い誘導している。	日中オムツに頼るご利用者もなくパット程度で暮らす方が居られる程度です。自立されて居る方が多く排泄パターンも良く管理され職員の気付きからの上手な誘導に寄り適切な支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食・昼食時には、乳酸飲料をとり入れている。排便チェックもしながら、水分摂取、服薬による促しもしながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望のある方には、その時間に合せて入って頂いている。なるべく夕方から夕食後の時間帯で入浴できるようにしている。入浴を拒否される方も少なく、じっくりと声かけをして機会をうかがっている。状態により足浴や清拭も毎日行っている。	入浴はご利用者が希望なされれば毎日でも応じられる体制が出来ています。時間も17時の夕食前後も可能で、多くのご利用者がこの時間帯を利用されます。入浴を拒否なされるご利用者も居られますが怒らせないよう根気よく場を変えては話しかけ足湯や清拭に誘うなどの工夫をされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活サイクルがそれぞれ違うので、見守っている。居室で休まれたり、リビングで休まれたり色々である。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の内容はカルテに、特に薬の内訳はファイルし確認できるようにしている。内服の変更は特に注意を促し、血圧薬は時間を追って観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	土いりじ、作品作り、家事諸々自分を活かせる分野で活躍してもらえよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩など希望にそえるように努めている。行事でも街中であれば、地域のこと、変わりゆく街並みなど話題には事かかない。	春から秋にかけては看護学校の生徒が交代で実習に来られるので実習生の支援も得られ、近辺に多数ある桜の名所へお花見に行きま。ホームが所在する医療福祉エリアの土地は広く極寒の季節を除いて四季を感じる絶好の散歩コースであり、ご利用者一人ひとりの状況に応じた外出支援が日常的に行われます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されてる方もいて、希望時には使えるよう支援している。そうではない方も行事の時に、おみやげを買うなど声かけも行ない、使う機会をつくるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話でやり取りされている方もいる。電話の要望にもこたえ、家族ともやりとりできるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさ、温度などこまめに調整している。対面式のキッチンから伝わる音やにおいては生活感を与えている。旬の食材を使って季節感を出したり、手作りのカレンダーや行事の写真を貼ったり、季節の花をさしたり、居心地よく過ごせる工夫をしている。	玄関を入り正面の事務室を挟み左右2ヶ所が各ユニットの共同空間としてのリビングで、各厨房からは居室の出入りやご利用者の寛いでいる様子を見守る事が出来ます。室内の採光も良く壁にはご利用者の行事への参加の様子を伝える写真や季節を感じる作品などが展示され、穏やかで心静かに過ごしていただけるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブル・こたつ・ソファがあり思い思いに過ごしている。隣のユニットへの行き来も自由。レクなど何かにつけては交流もあり、開放的になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具・物・服など持ち込み生活されている。多少ものがあふれても、その方が安心できる空間となっているので、本人に任せている。	居室は今まで住んで居た家庭の部屋の延長と考えていただき、ご利用者の馴染みの品や思い出の品を持ち込んでいただき、プライバシーが守られ安心して生活が出来るよう配慮されています。職員の出入りもご利用者への言葉掛けやご挨拶を忘れないよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、リビング・トイレ・浴室には手すりをつけ安全をサポートしている。居室でもトイレを設置したり、簡易柵、手すりなど少しでも自立した生活が送れるよう工夫している。		